

Q & A

Q 着席していても、足や体を絶えず動かしていたり、手遊びなどをしてしまいます。

A その対応として、

授業中は、学習することを意識させるために、机の上や中に、子どもが遊びそうな物を置かないようにする。



学習が始まる前に、運動場を走らせるなど、思い切り体を動かして遊べる時間を設ける。

授業中に、黒板を消したり、プリントを配ったりするなど、体を動かす機会を与える。



Q 先生の質問が終わる前に、出し抜けに答えたり、友達や先生の話さえぎったりします。

A その対応として、

「これから について話をします。『おわり』と言うまで、静かに聞きましょう。」などと言って、最後まで聞くように促す。

最初はできるだけ短い話にする。
話し終わるまで聞けたときは、「えらいね、静かに聞けたね。」などとほめる。

子どもに話す機会を与える。

静かに聞ける回数を徐々に増やす。



Q 順番が待てません。

A その対応として、

順番を守り、見通しをもって待つことができるようにする

順番カードやゼッケンなどを使って、子どもに順番が分かりやすいように工夫する。

「あと何人」とか「分まで」など、どれだけ待てばよいかを、具体的にはっきりと知らせる。

最初のうちは、少しでも待てたら「人待てたね。よかったね。」などと具体的にほめる。

待つ人数や待つ時間を徐々に増やしていく。



少しずつ長く待てるように助言したり、励ましたりする。

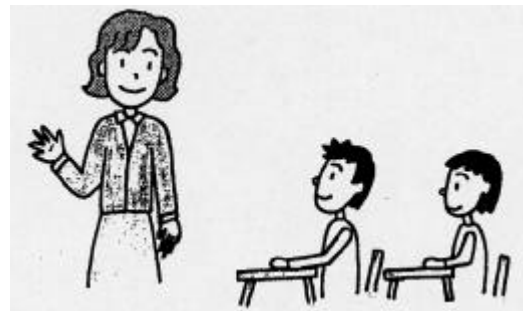
Q 気が散りやすく、課題に集中して取り組めないことがあります。

A その対応として、

集中できる環境をつくる

教室の中では、先生の声が聞こえやすい前方の場所に座らせる。

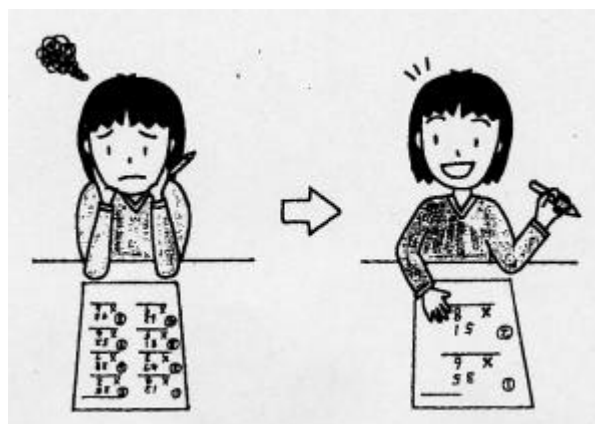
集中できなくなってきたときは、子どもの体に触れるなどして、注意を向けさせる。



課題の量を調整する

1つの課題は、できるだけ短時間で達成できるようにする。

単純な課題から、少しずつ複雑な課題に取り組ませる。



Q 読み間違いや、最後まで指示を聞けないことがあります。

A その対応として、

文章を読み間違っているにもかかわらず、そのまま進んでしまうとき

「ここを見てごらん。」と間違った部分に注意を向けさせ、読み返しをさせる。

キーワードを言ったり、印をつけるなどして間違いに気づきやすいようにする。

指示した言葉を最後まで聞かずに、間違えて取り組んだとき

指示内容を前もって話しておく。

指示内容を単文で箇条書きしたカードを提示する。



Q 宿題があるのを忘れてしまいます。

A その対応として、

宿題などのメモをとる習慣をつける

聞いて覚えることが苦手な子どもには、連絡事項を小黒板に書いて、見えやすい場所に掲示する。

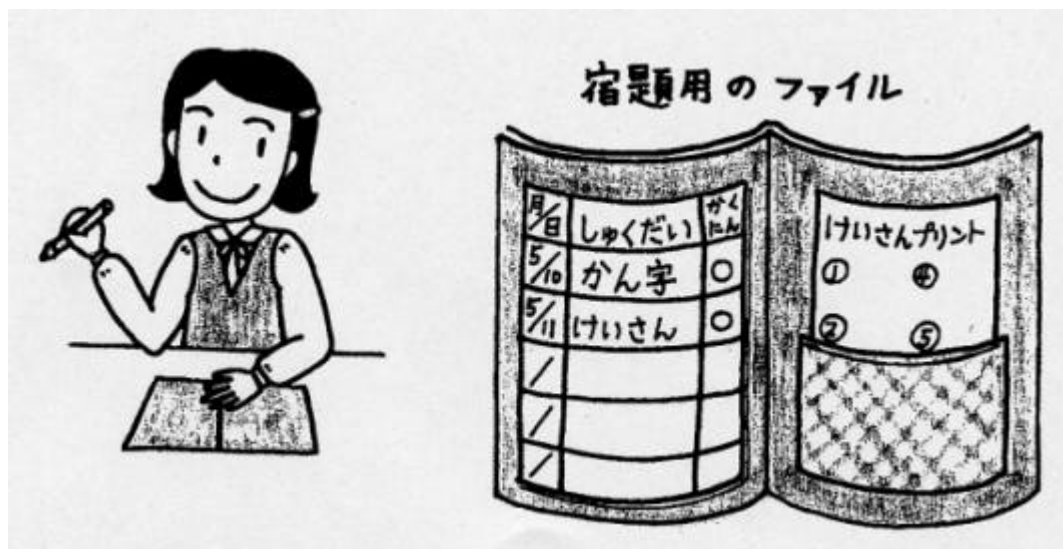
書くことが苦手な子どもには、担任や友達が手伝ってあげる。

連絡帳を活用する

宿題の内容と提出日を記入させる。

担任が横にいて、記入内容を確認する。

保護者に宿題の点検をしてもらうと同時に、子どもにチェックさせる。



Q 勝ち負けにこだわり、ゲームができません。

A その対応として、

ゲームで負けると泣きわめくからといって、ゲームに参加させなかったり、子どもに勝ちを譲ったりしないようにする。

トランプやすごろくなど、大人と一緒にする。大人がゲームに負けてみせ、そのときの感情を表現するなど、負けたときの対処の仕方（モデル）を見せる。

チームで行うゲームを導入し、負けたことへの本人の負担を少なくする。

友達とどうしても協力しなくてはならないゲームをする。

ゲームをしているとき、具体的によいところをほめる。

勝っても負けても、順番を守れたこと、相手に譲れたこと、楽しく遊ぶことなど、ゲームのプロセスを評価する。



ゲームの回数を増やし、最初に勝つことだけが大切でないことを知らせる。